別紙１

**長岡戦災資料館整備工事基本設計業務委託　概要書**

１　業務の概要

（１）整備概要

中心市街地の再開発事業に伴い、令和５年度に互尊文庫が移転するため、この建物を有効活用し、現在、民間施設を借りている長岡戦災資料館を移転する。

このため、互尊文庫の建物全体を改修（耐震補強、老朽化対応、バリアフリー化）し、長岡戦災資料館の目的や機能を発展的に継承する施設を整備する。

新たに整備する施設においては、資料展示室、長岡空襲体験画展示室、遺影展示室、映像資料視聴室、平和学習室、図書閲覧室、事務室、収蔵庫、トイレ、多目的トイレ、エレベーターを設け、従来の施設では手狭で公開できなかった資料の展示ができるようにする。

なお、展示内容については、長岡市が戦災資料館企画運営検討委員会等の関係者の意見を踏まえ計画する。

（２）施設概要

　　ア　長岡戦災資料館コンセプト

　　　　新潟県唯一の大規模戦災都市である長岡市は、長岡空襲の史実を風化させることなく、その悲惨さ、慰霊の気持ちを後世に伝え、平和の尊さを発信することを目的とし、平成15年に長岡戦災資料館を開館した。以来、長岡空襲の体験者を中心とする多くの市民とともに作り上げ、運営してきた。

　　　　多くの思いを受け継ぐ新施設は、市民と行政が一緒に育てていくこと、空襲の爆撃中心点に接する立地から、次代を担う若者が長岡空襲及び平和について一体的に学習できる場であること、訪れた人が穏やかに過ごし、観覧し、慰霊の気持ちを感じる閑静な施設であることをコンセプトとする。

イ　必要諸室等

資料展示室、長岡空襲体験画展示室、遺影展示室、映像資料視聴室、平和学習室、図書閲覧室、事務室、収蔵庫、トイレを備え、高齢者や障害者に配慮して、段差解消、多目的トイレ、エレベーターの設置を行うこと。

なお、各室についての説明及び現在の使用状況は次のとおりである。

①資料展示室

　長岡空襲関連資料を常設展示する。現在、4,125点の資料を所蔵しており、１階（170.3㎡）に170点、写真等のパネル約70点を展示している。

新施設では、展示点数を増やすとともに、より見やすい展示を行うためにスペースが必要である。

②長岡空襲体験画展示室

　長岡空襲体験画を常設展示する。現在、126点を所蔵しており、企画展の際に３階（182.1㎡）に約40点を展示している。新施設では、展示数を増やすだけでなく、　　関連資料や写真パネルを同時に展示するためにスペースが必要である。

③遺影展示室

　長岡空襲殉難者の遺影を１階に常設展示し、静かな祈りの空間として整備する。

現在、356枚を所蔵しており、企画展の際に３階（182.1㎡）に全点展示している。

新施設では、関連資料や写真パネルを同時に展示するためにスペースが必要である。

④映像資料視聴室

　長岡空襲に係る映像資料や体験談の動画などを視聴する部屋を整備する。

個人の来館者が視聴する場合と、団体での利用者が視聴する場合があるため、それぞれが分かれていても良い。

現在は単独の部屋はなく、１階のテレビと３階のスクリーンでの視聴を状況に応じて使い分けている。

　　　⑤平和学習室

　　　　主に小中学校生徒30～40人が学習のために来館した際、長岡空襲についての講義　　　　や長岡空襲体験談の講話、長岡空襲紙芝居の公演を行う部屋を整備する。

現在は１階の展示室で講義を行った後、３階で体験談や紙芝居を観覧したり、映像資料を視聴する。

よって、資料展示室や映像資料視聴室への移動を考慮した動線が必要である。

　　　⑥図書閲覧室

　　　　来館者が図書を閲覧する部屋又はスペースを整備する。

現在、1,605冊を所蔵しているが、単独の閲覧するための部屋はなく、１階の事務スペースの隣で約100冊を閲覧可能にしている。

新施設では、約1,200冊を閲覧可能とするほか、盗難防止への配慮が必要である。

　　　⑦事務室

　　　　職員が事務を行う部屋又はスペースを整備する。

現在は１階の一角を展示パネルで仕切って使用している。

図書閲覧室の近くに配置を希望する。

　　　⑧収蔵庫

　　　　現在は３階（182.1㎡）及び４階（81.62㎡）の一部を使用している。

新施設では、１部屋だけでなく、複数あってよいが、資料を運搬することを考慮した動線が必要である。

（３）委託内容

　　　①基本設計図書の作成

　　　②耐震改修案の作成

　　　③建築基準法、消防法、その他関係法令に基づき、用途変更により改修要となるものの整理（建築基準法第４３条許可を含む）

　　　④概算工事費の算出

　　　⑤概略工事工程表の作成

（４）今後の計画（予定）

　　・令和４年度：基本設計

　　・令和５年度：実施設計

　　・令和６～７年度：建築工事、電気設備工事、機械設備工事

　　・令和７年度：供用開始

（５）業務実施上の留意点

ア　業務にあたり、敷地の立地、環境条件、既存建物の状況、長岡戦災資料館の展示資料の状況等を調査し、その結果を踏まえた計画とすること。

イ　本業務の実施に当たっては、通年対応できる管理技術者及び主任担当技術者を定めるとともに、長岡市と十分な協議及び調整を行い、作業を進めること。

特に、展示内容は長岡市が計画するため、各室の規模やレイアウト、照明計画等について、十分に調整を行い、設計に反映すること。

ウ　本業務の実施に必要な既存資料については可能な限り提供するので、これを適宜修正又は加工して設計業務に活用しても良い。

エ　本業務の実施に当たっては、業務委託設計スケジュールを作成の上、発注者に随時、連絡及び報告を行いながら進めること。

オ　戦災資料館企画運営検討委員会や運営ボランティアが施設の運営に携わっているので、これらの会議で設計内容の説明を随時行うこと。

カ　エレベーター棟などの増築や用途変更に伴い、既存建物を建築基準法、消防法、その他関係法令に適合させることが必要な改修事項については、関係部署と綿密に打ち合わせること。

特に、既存建物の敷地は接道していないため、建築基準法第４３条の許可条件等について、担当部署と十分に協議すること。

（６）設計上の留意点

ア　建物の接道については、建築基準法第４３条の許可を受けることを前提に設計すること。

イ　既存建物の床面積約１６００㎡のうち、必要諸室を整備する範囲は１，０００㎡程度とし、その他のスペースは、将来的に事務室等として使用することを想定して改修すること。

ウ　既存建物は昭和４２年の建築のため、耐震改修と老朽化対応を行い、安心して、長く使用できるように改修すること。

エ　既存建物の１階床には複数の段差があるため、高齢者や障害者に配慮したバリアフリー化を図ること。

オ　学校等の平和学習を想定し、各展示室と平和学習室の機能的な配置や動線を検討すること。

カ　各展示室については、様々な展示の仕方に対応が可能な構造とすること。

キ　隣接する明治公園との親和性が高い既存建物の空間特性を生かした耐震改修案を作成すること。

ク　既存建物の玄関は２か所（南側及び東側）あり、従来は南側玄関からの出入りが主であったが、東側玄関から出入りすることも想定し、諸室の配置や施設内の動線を検討すること。

ケ　その他、来館者の休憩スペース、まちなかの戦災関連施設の案内など、明治公園との親和性を高め、まちなかの回遊性を誘導することで、長岡戦災資料館の機能をより強化させる施設や設備等があれば、積極的に提案すること。

コ　既存建物の有効活用を図り、イニシャルコストの抑制と工期の短縮に努めること。

２　互尊文庫の概要

（１）現況施設の概要

・竣工年月：昭和４２年１０月

　　　・敷地面積：約１，０７４㎡

・建物構造：鉄筋コンクリート造３階建て（一部４階）　延床面積約１，６００㎡

　　　　　　　　　一般貸出開架室、事務室、書庫、学習室、トイレ等

（２）利用状況（長岡戦災資料館入館者数）

平成３０年度　１７，２３３人　※コロナによる休館がない直近の年の人数

（３）その他

　　　配置図、平面図、立面図を参照